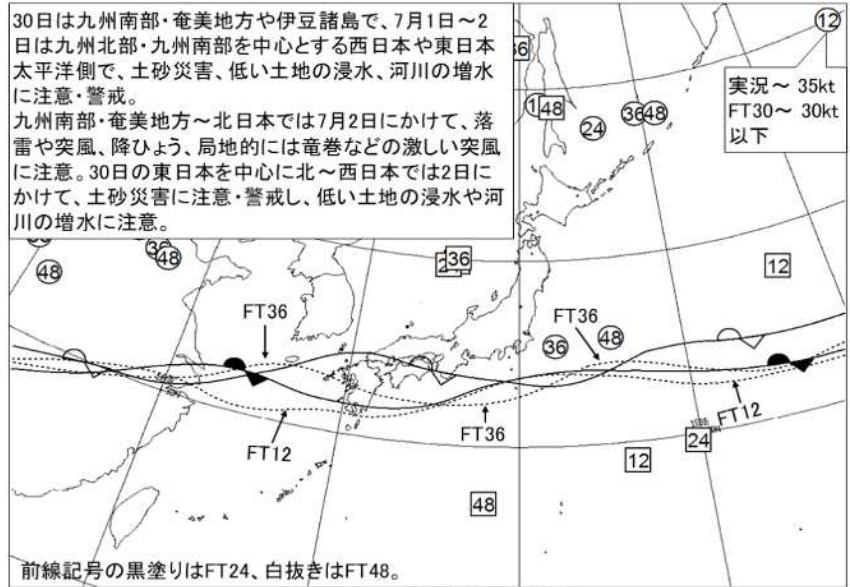


### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m付近の正渦度帯に対応の前線が北緯30～32度にのびており、短波のトラフ通過に伴い前線に向かう下層暖湿気が強まり、前線付近から南の水蒸気フラックス収束域で対流雲が発達。発雷を検知し、一時非常に激しい雨を解析。
- ② 前線の北側の西日本から東日本太平洋側にかけては引き続き気圧の谷となっており、相対的に下層暖湿気が滞留。21時の高層観測で925hPa相当温位340K前後の所がある。500hPaでは東日本周辺で-9℃前後となっており、未明になっても対流雲が持続し、激しい雨の所がある。
- ③ 北日本西側の大陸から日本海は暖気団内。オホーツク海から北海道東方にかけては下層寒気が断続的に南下。その間は気圧の谷となっている。500hPaでは5760m以下で-12℃以下の寒気の流入が継続中。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は7月1日にかけて、太平洋高気圧の西への張り出しに伴って九州や伊豆諸島付近をゆっくり北上する。また、1日～2日には、500hPa 5820m付近のトラフが黄海から東日本に進み、その前面で前線に向かう下層暖湿気の流入が強まって前線上に波動が形成され、1日夜には九州北部地方、2日には近畿地方から東日本太平洋沿岸まで前線が一時北上する。このほか、500hPa 5820m付近の先行するトラフに対応し、1日朝までには、1項②の気圧の谷の関東沖で前線よりも北に低気圧が発生して東北東に進み、伊豆諸島付近で前線を北上させる。この前線付近から南側では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる地域が西日本や伊豆諸島から東日本太平洋側に拡大する。30日は九州南部・奄美地方や伊豆諸島で、7月1日～2日は九州北部地方・九州南部を中心とする西日本や東日本太平洋側で、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の前線の北側となる地域においても、1項②や③の要因により、日中気温が上昇する地域を中心に大気の状態が不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。30日の東日本を中心に、北～西日本では7月2日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。激しい雨に伴い、土砂災害に注意・警戒し、低い土地の浸水や河川の増水に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線及び前線上の波動の位置は、不確かさが大きいことに留意。

**4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(06時からの24時間) : 九州南部 120mm。② 波浪(明日まで) : 高い所 (3m以上) はない。

**5. 全般気象解説情報発表の有無** 発表の予定はない。